

平成25年度第1回 読書のまち八王子推進連絡会議 会議録

日時 平成25年4月16日（火） 午後6時00分～7時35分

場所 八王子市中央図書館 3階 会議室

議題 (1) 第2次読書のまち八王子推進計画について

報告事項 (1) 平成25年度予算について

(2) その他

出席者氏名

委員	三浦 眞一	山崎 久道	小平 有紀	三塚 久美子
	吉澤 淳	鈴木 康弘	谷口 葉子	中村 和也
	森岡 庸浩	志田原 節子	豊田 亘男	三上 浩一
	小澤 篤子	石川 和弘		
	山本 武			

欠席委員 斉藤 和巳 辻井 睦

事務局 豊田中央図書館長 中村生涯学習センター図書館長
村田南大沢図書館長 福島川口図書館長
中央図書館 樋口主査 市原主査
生涯学習センター図書館 高橋主査
川口書館 平井主査
南大沢図書館 新井主査 嶋崎主査

傍聴人 0 人

会議録署名委員 中村 和也

開会

事務局（福島川口図書館長）～それでは、定刻になりましたので、始めさせていただきます。 わたくし、川口図書館長の福島でございます。よろしくお願ひします。本日は新年度のお忙しい中、平成25年度第1回読書のまち八王子推進連絡会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。それではこれより読書のまち八王子推進連絡会議の進行を三浦会長にお願いしたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。
三浦会長～それでは、会議を進めさせていただきます。

本日の会議につきましては、過半数の委員さんのご出席をいただいておりますので有効に成立していることをご報告申し上げます。なお、斉藤委員、辻井委員からは所要のため欠席とのご連絡がありました。

本日、傍聴人は0人です。

会議録の署名委員に関しましては、中村委員にお願いいたします。

(中村委員の了承があった)

三浦会長～それでは、人事異動につきまして、事務局よりご説明をお願いします。

事務局(福島川口図書館長)～一番上の名簿のほうをご覧頂けたらと思います。

この4月に、4月1日付の異動等で委員さん4名の変更がございました。まず、幼稚園の代表の委員さんが変わりました。黒田委員の後任といたしまして志田原委員に代わっております。また、行政委員は、公益財団法人八王子学園都市文化ふれあい財団コミュニティ振興課長さん常盤委員から三上委員に変更になっております。

学校教育部の指導課のほうで草刈委員から石川委員、それから、後でご紹介しますが、山本統括指導主事が一緒にご出席ということで後でまたご挨拶をいただきますので、よろしく申し上げます。それと、子どものしあわせ課長さん森田委員から、正式には、子ども家庭部次長兼子どものしあわせ課長さん小澤委員に変更になっております。それでは志田原委員さんから、一言ずつごあいさつのほうをよろしく申し上げます。

志田原委員～幼稚園のほうの委員ということで、きょうからこの会に参加させていただくことになりました。幼稚園でも本に親しむということとはとても大切なことと受け止めまして、各園で、充実した環境整備に取り組んでいるところですがなかなか予算的には厳しいものがあって苦慮しているものでございます。八王子のこうした指針の会で勉強させていただいて、幼稚園教育の充実に向けていきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

事務局(福島川口図書館長)～よろしく申し上げます。あと、行政委員をお願いします。

三上委員～こちらの会議では、前任の常盤がお世話になりました。ありがとうございました。私ども、地区図書室を中心に図書の活動を展開しておりますが、今後も引き続き、分館化というお話もある中で、地区図書室を通じて図書が世の中に広がっていくことを推進していきたいと考えております。常盤を引き継ぎます、三上といいます。どうぞよろしく申し上げます。

事務局(福島川口図書館長)～ありがとうございます。学校教育部指導課石川

委員につきましては、後程ご挨拶をいただきますのでよろしくお願い申し上げます。次に、子どものしあわせ課長、小澤委員のほうからご挨拶をお願いします。

小澤委員～小澤でございます。わたくしは以前、子ども家庭支援センターという虐待の子どもに対応する部署にいました。また、その前には三浦会長と一緒に社会教育、生涯学習のほうにもおりました。子どもをめぐる読書活動のような、子どもの情緒を育てる教育について、大事なことだというのは認識をしております。子どもの部門から参りましたので、また、いろいろと施策を作っていきたいと思っておりますので、どうぞ、いっしょによりしくお願いいたします。

事務局（福島川口図書館長）～次に図書館の異動のご紹介をさせていただきます。まず、中央図書館で穂坂参事の後任といたしまして、豊田参事が就任いたしました。正式には、生涯学習スポーツ部参事（図書館担当）兼八王子図書館長の辞令でございます。また、南大沢図書館の遠藤館長が定年退職いたしましたして、後任として、南大沢図書館長で、村田館長が就任いたしました。ちなみに、村田館長につきましては次回の会議から、この会議を担当いたしますので、ご承知おきのほうをよろしくお願いいたします。では、豊田参事のほうからごあいさつをよろしくお願いいたします。

豊田参事～こんばんは。わたくしは、前職は選挙管理委員会事務局長ということで、2年3か月ばかり、統一地方選挙、前回は衆議院議員選挙という選挙事務をやっていた中で、この4月から、この図書館の中央館長を命じられましたので、本当に浅学非才で申し訳ございませんけれど、教育には、何回かいたことはあるんですけど、生涯学習教育のほうについては、はじめてな経験ですので、まだ未知なものがいっぱいあります。そんな中で微力ではありますがでも全力で頑張りたいと思っておりますので今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。

事務局（福島川口図書館長）～次に村田館長よりよろしくお願い致します。

事務局（村田南大沢図書館長）～4月1日付で南大沢図書館長に異動しました村田と申します。前職は市民活動推進部というところで、ここにいらっしゃっている三上さんが所属している学園都市文化ふれあい財団のほうの担当ということで3年間やってまいりました。今度、新しく図書館ということで、始めてなんですが、図書館行政のほう、市民の皆様にご利用できる環境整備等をやっていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

事務局（福島川口図書館長）～後、事務局でですね、中央図書館の主査が一人

代わっておりますので、今後、この会合に説明員として出席することになりますので、市原主査がここで代わっておりますのでご紹介申し上げます。

事務局（市原中央図書館主査）～市原と申します。今後ともよろしくお願いいたします。

三浦会長～ありがとうございました。

それでは会議資料の確認をお願いします。

事務局（新井南大沢図書館主査）～おそれいりますが、お手元の配付資料の確認をお願いします。

まず、委員さんの名簿と事務局の名簿がございます。

次に、本日の平成25年度第1回読書のまち推進連絡会議次第がございます。

次に資料1-1「第1回読書感想文コンクール」の実施結果について資料1-2読書感想文コンクール等入賞者の海外派遣について次が、No3と書いてあります。大きい資料になります。その下に「らいぶらりい-八王子市図書館報」になっております。以上ですが、不足などがありましたらお申し出ください。

（ 資料の確認が行なわれた ）

三浦会長～資料の確認はよろしいでしょうか。

それでは会議に入ります。

議題1「第2次読書のまち八王子推進計画の取組状況について」、を議題にさせていただきます。本件につきましては、24年度事業として様々な事業を行っておりますが、その中で読書感想画・読書感想文コンクール、また、学校連携といたしまして、図書館サポート事業における24年度の実施状況と25年度の予定についてのご説明を事務局からお願いいたします。

事務局（福島川口図書館長）～読書感想文コンクールの実施結果と読書感想文コンクールの入賞者のうち、上位入賞者を台湾派遣ということで、台湾のほうへ連れて行きましたので、その報告を含めてご紹介をさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

（石川委員到着）

石川委員～市役所より参りました、教育委員会の指導課指導主事の石川と申します。どうぞよろしく願いいたします。山本のほうも後程参りますので、すみません、遅くなりまして申し訳ありませんでした。

事務局（福島川口図書館長）～では、読書感想文コンクール、感想画コンクールは以前に紹介済みでございますので、今回は、第1回、24年度に行われました読書感想文コンクールの実施結果および、入賞者の海外派遣につきまして報告及び説明をさせていただきます。こちらの事業につきましては、読書のまち八王子推進計画の中の、第3部、第2章子ども読書活動推進計画の中の、特に子ども読書活動の推進に向けた取り組みの小中学校の児童生徒の読書活動全般にかかわるものでございまして、個々の24年度実績と25年度予定につきましては、次回の会議にてご説明をさせていただくところではございますが、本事業につきましては24年度に行われました全体的な事業ということで、ご説明をさせていただきます。前回の会議のほうで、大体、大まかなところをご紹介をさせていただいたところで繰り返しのところもあろうかと思いますが、ご了解願います。この読書感想文コンクールというのは平成24年度から独自に開催された事業でございます。こちらにつきましては目的につきましては、コンクールに応募した多くの児童・生徒が、読書による印象を文章に書くことにより感動をさらに深めてもらうとともに、これからも豊かな読書習慣を身に付けてもらうというのが第1の目的でございまして、もう一つの目的といたしましては、今回、東京八王子西ロータリークラブさんと共催で実施したということでございまして、地域の市民の方と「協働」によるまちづくりを推進するために実施をしたものでございます。応募期間といたしましては、11月の1ヶ月間、募集をさせていただきまして、応募作品数は617作品でございました。こちらについては、この前の時にご紹介させていただいたところですが、私立の学校にも募集をかけさせていただきまして、私立の学校を含め、小学校が34校、中学校が17校からの応募がございました。合計617作品の応募がございました。内訳につきましては、小学校低学年、小学校高学年、中学生の部、このとおりでございます。選考方法につきましては、第一次審査会で、小学校低学年が32作品、小学校高学年が25作品、中学生の部が28作品を2次選考に送るための選考を、まず、いたしました。第2次審査会が、25年1月10日に行われましたが、ここで第2次審査会におきまして、各部の受賞者を決定いたしました。第1次審査会から第2次審査会に送ったものの中で、各10作品が受賞作品として決定したところでございます、それが5番の表彰内容のところでございます。受賞者につきましては、最優秀賞が1作品、東京八王子西ロータリークラブ会長賞が1作品、優秀賞が3作品、入選が5作品でございます。こちらにつきましては、今日、資料で「らいぶらりい」が配られている

と思うんですけど、こちらの4ページのところに読書感想文コンクールの入賞者の紹介をさせていただいているところでございます。誌面の記載のとおりのお子さんたちが入賞をしたところでございます。そして表彰式が平成25年2月2日におこなわれまして、市長、教育長の臨席のもとで表彰式が行われたところでございます。

それから、東京八王子西ロータリークラブさんより提供された図書カードを受賞者全員の方に配付するとともに、中学校の上位受賞者5名、あと読書感想画コンクール、絵をかくコンクールで2名の方が対象となって、そのうちの1名が参加したんですけれども、合計6名を八王子市の海外友好交流都市台湾高雄市へ、海外派遣をさせるという、この副賞が贈呈されたところでございます。

次に、1-2という資料をご覧いただけたらと思います。読書感想文コンクール等入賞者の海外派遣について、報告をさせていただきます。この派遣につきましては、校長会からの選出で、読書感想文コンクールの審査員を務めました、式分方小の清水校長も、東京八王子西ロータリークラブさんからの依頼により同行しております。八王子市から、私と、式分方小の清水校長と、国際交流課の通訳兼コーディネーターなんですけれど、台湾国籍の嘱託員の鄧さんと3人で同行しまして、その他東京八王子西ロータリークラブさんからも同行しておりますのでご紹介をさせていただきます。

今回の海外派遣でございますけれど、春休み中の3月26日から28日まで3日間、台湾の高雄市を訪問させていただいたところでございます。高雄市は、北緯22度の大体石垣島と同じような緯度でありまして、気候は熱帯モンスーン気候でかなりムシムシした気候でございました。教室の中でペーパーなど架かっているものがくしゃくしゃ、意外と湿気で丸まってしまうという、そんな気候のところでもございました。日本との時差は1時間のところでございます。台湾の第1の都市台北というのがあるんですが、大体台北に飛行機がつくんです。そこから新幹線で1時間半くらいで高雄市に到着するという、大体そんな位置関係でございます。高雄市なんですけれど、人口が277万人で、八王子市の約16倍2950平方キロくらいございます。高雄市とは、黒須前市長の在任中に、平成18年に八王子市との海外友好交流都市になっております。同事業には高雄市の名誉市民ということもございまして、黒須前市長も同行をしたことを申し添えさせていただきます。ちなみに今年2月の中旬には、高雄市の最大の催し物で、高雄市の伝統文化を祝う恒例の祭りでございます、高雄ランタンフェスティバルというのがございまして、

そちらのほうに、今の石森市長、中村副市長、市民活動推進部長が表敬訪問をしたところでございます。今回の派遣生徒につきましては、資料の3の通りでございます。このうちの、上の5名につきましては読書感想文コンクールの受賞者、浅川中学校の平田さんにつきましては、読書感想画、絵のほうの受賞者でございます。本当はもう一人、男の生徒さんがいたんですけど、今回は辞退をいたしまして、6名とも女性の生徒を派遣をしたところでございます。派遣内容なんですけれども、まず第1番目といたしまして、台湾の高雄市の庁舎のほうを表敬訪問をいたしました。毎年、八王子市の国際交流課というのがあるんですけど、そちらで、台湾の高雄市の生徒に対しまして、八王子市の教育委員会が八王子市の学校でやっているのと同じような読書感想画コンクールというのを開催しておりまして、高雄市の生徒が描いた作品の中から八王子市長が最優秀賞を選出しております。高雄市の生徒、子どもさんでございますので、昨年度までは受賞した高雄市の子どもたちには、表彰状や副賞のメダルをただ単に送付していたところでございますけれども、高雄市の市長は陳市長とおっしゃいますけれども、今回私どもの海外派遣の日取りに合わせて直接陳市長から台湾の受賞した子どもたちに対して表彰したいというお申し出がございました。そこで、表彰式、報道関係者が臨席する中で、派遣生徒が八王子市の代表といたしまして、表彰式の壇上に立ちまして、陳市長と一緒に受賞した台湾の子どもたちに表彰状と副賞のメダルの授与式に直接携わりまして両市の友好親善の役割を果たしてきたところでございます。生徒たちは多少緊張していたんですけども、大役を立派に果たしてまいりました。その場を終え、生徒の言葉からも、満足そうな表情もうかがえたところでございます。次に第2番目といたしまして、写真の右下ですが高雄市の苓雅（れいが）中学校を訪問いたしました。苓雅中学校というのは、高雄市の庁舎から近くの学校でございます。こちらの中学校で高雄市教育局のご理解を得まして、本市の生徒が、直接、英語の授業に参加いたしまして、この苓雅中学校の生徒との交流を行ったところでございます。この授業なんですけれども、英語だけの授業でございます。母国語ではなくて、英語を通して台湾の子どもたちと八王子市の受賞した子どもたちが触れ合うことが実現できたところでございます。最初、お互いの生徒たちが、多少遠慮がちなところもあったんですけども共通語の授業を通しまして、だんだんと溶け込み始めて授業の半ばからは高雄の苓雅中学校の生徒と一体になりまして授業に参加して、立派に教育交流ができたところ

でございます。

ただ、残念ながら時間がもう少し取ればよかったかもしれないのですが、意外と充実しておりましたので、時間がたつのがすごい早く感じて、すぐ過ぎてしまいました。お互いの生徒たちはなかなか別れることができず、授業の終わった後も生徒達同士会話をしたり、記念写真を撮ったり、時間がオーバーして、その後の予定が少し後ろに押ししてしまうという状況でございました。バスに乗り込んだ時に、派遣した生徒からも一生忘れることのできない体験をしたと、そういう言葉を聞いた時には、読書感想文コンクールからスタートいたしまして、青少年の健全育成という分野にも事業をつなげることができて、台湾派遣の事業をやったということを非常にうれしく思ったところでございます。私自身随行者として行ってすごく良かったなと感じたところでございます、子どもたちの満足した状況と荅雅中学校の生徒の歓迎ぶりを見たときに本当に感動を覚えたところでございます。

以上の友好親善、教育交流以外でも、あまり時間は取れませんでしたけれども、高雄市の観光、文化に触れる時間もございまして、高雄市の郊外に蓮池潭（れんちーたん）という有名な、龍虎塔という塔があるんですけれども、そちらで台湾の仏教と道教の融合した彫刻ですとか、色彩豊かな建造物を見て、日本のそれとは違う文化に触れることができまして非常によかったなと感じているところでございます。

台湾は、非常にオートバイが多くて、信号待ちの時に車でなく、オートバイのすごい長い列ができる状況ですとか、赤信号に、必ずあと何秒で青になるよと表示がでて、その国民性の違いとかも体験して帰ってきたところでございます。

この3日間で十二分に生活習慣の違い等も確認をし、あらゆる意味で国際感覚を養うことができたと感じているところでございます、読書感想文コンクールからスタートしてこのような催し物までやるということに意味を感じているところでございます、今年度も引き続き読書感想文コンクールからスタートしまして、海外派遣まで実現できればというところを感じているところでございます。

最後になりましたけれども、東京八王子西ロータリークラブさんからは、同様の事業で、共催で行う旨の申し出を25年度もいただいているところでございます、今回の海外派遣の有効性につきまして十二分に確認ができた状況でございます、今申し上げたんですけれども、読書感想文コンクールを実施することからスタートしまして、市役所の中、縦割りじゃなくですね、学校教育部、国際交流課とも連携した中で、最初

は豊かな読書習慣を身につけてもらうとともに青少年の健全育成への分野まで、つながるような効果的な事業を継続して行っていく所存でございます。わたくしからは報告は以上でございます。ありがとうございました。

三浦会長～今の読書感想文コンクールの実施結果の海外派遣という部分ですが、ここにいらっしゃる山崎先生も2次審査の審査員をしていただきました。感想を含めてお願いいたします。

山崎委員～山崎でございます。今、詳細なご報告をいただいて、目に浮かぶような気がしてまして、子どもたちにとって海外に行くということはいかに大事なことかと、しかも特に感想文で優秀な人たちは感受性がとりわけ鋭い方々だと思うんで、そういう人たちが、いわば、先導役みたいな形で行かれた。行った感想文かなんか書いていただいたらいいんじゃないかという気がするんですよね。台湾に行ってどう感じたか、たぶん素晴らしい文章を書いていたのではないかと思う。コンクール全体については、この前お話が出たようですけど私も暮れからお正月にかけて、ものすごい数のお年玉をいただきまして大変、感想文の2次審査できたものが百いくつか、それを全部読ませていただいて、私自身は大学教育の一端を担っているものですけども、小学生の作品とか、中学生の作品とか、読ませていただいて、これだけ本に対してすごく感受性を持っている人たちが、何で大学になるとただの人になっちゃうんだろう。ほんとにそうなんです。前にも申し上げたんですが、日本では小学校の児童に対して読書の楽しみを感じているかという非常に高い確率で楽しみを感じている。それが中学、高校と漸減して減ってっちゃうんです。それが非常に不思議で、だんだん感受性が豊かになってしまってもっともっと読書の面白さを感じてもらえるはずなのに、何が理由かわからないですが学校の年次が進むにしたがって読書に対する喜びを感じにくくなっているという話をデータとして見ていたものですから、こういうお子さんたちが本当に素直に感受性を育てるように、私たちは将来的に持って行かなければいけない。何か、こう、型にはまった人間にだんだんなっていってしまう。それを要求している社会というものがあるのかもしれないのですが、そうだとすると、ますます反省する必要があるということで、そんなことをつくづく感じさせられた経験でございます。ありがとうございました。

三浦会長～皆さん、何かご質問はございますでしょうか。

事務局（福島川口図書館長）～今の、山崎先生が言われた、行った生徒たちに対する感想文という話なんです、実は書いていただくことになってお

ります。また6月に感想文を書いていただいて報告するという。そういうのでまた、その次につなげるという計画がございますので、報告をさせていただきます。

三浦会長～ちなみに海外派遣につきましては、実は教育委員会から、ジュニア国際交流フレンドという認証をいただいて、委嘱状をいただいてジュニア国際交流フレンドとして正式に高雄市を訪問した。そして、先ほどお話があったように、先方の読書感想画の入賞者の諸君に、陳さんという市長さんがメダルをかけたり、賞状を渡したりという、壇上で運ぶことをすべて子どもたちがやって、大変緊張した中でやっておりましたけれど、子どもたちはどうしてもバスの後ろのほうに固まるんですね。話をしているのが聞こえてくるんですね。そうしますとやっぱり感受性が豊かな時期ですから、話をしているのを、大人は前のほうでしばっくって聞こえないふりをして、子どもの世界で交流してもらおうということが重要だろう。特に子どもたちにびっくりしましたのは、先方へ行きまして、自己紹介をするときに全部中国語でやったんです。こっちで覚えてたということですね。一緒に行った仲間が自分の友達がいるわけですが、この子を紹介するのもじつは中国語でやったんです。私も正直なところ、そこまで期待してなかったんですが。やはり子どもたちの感性の高さというものを逆に教えられたなというのが実感でした。よもや子どもたちのほうが先に中国語であいさつができるようになる。私は英語であいさつしてたんですが子どもたちは中国語であいさつしている。ここにこう、読書から始まって大きなふくらみを持たせることができたのかなということを実感をいたしました。

これにつきまして、ご意見、ご質問ございますか。

鈴木委員～ぜひ継続して、連れて行ってください。

三浦会長～今回、特別、PTAにはご相談を申し上げなかったようなんですが、PTAのご対応というのは今後はいかがなんでしょう。

谷口委員～情報を共有しながら、PTAの協議会などでも早めにいろんなことがきちっとご連絡いただければ、そこで皆さんのほうに周知していけるかなど。学校によってはいろいろな行事が様々な地区、運動会の実施など、違ったりするんですが、こちらのほうとしてもそういうことも各学校のPTA会長とかみなさんが知っていれば、そのために苦心をしているかなと思います。

中村委員～こういう機会をたくさん子どもたちに与えてあげられるということのはうれしいことだと思っています。結果を見ると、やはり女子のほうが優秀なんだなど。中学校の全PTAでも科学コンクールみたいなことを

やっているんですけど、女子しか受賞しないんです。女子と男子の差がかなりついちやっているような感じ。今の、中国語での自己紹介なんて話を聞くと、もう、男子はちょっと太刀打ちできないような。

吉澤委員～僕も同じですね。ぜひ続けていただきたい。先ほど山崎先生のお話の中で年次が進むと読書の意欲も量も減る。小学校6年間でも、低学年より、高学年に読ませるほうが大変なんですね。日記の最後に1日で読んだページを記録するというのをやらせるんですけど、同じことがどんどん日々進んでいくんだと・・・・・・・・

三浦会長～今回のこの事業を教育委員会全体でできるようにしていただけたら学校教育部も大変多かったですけれど、学校教育部はこの件について何か。

石川委員～私もこの4月から指導主事になりまして、特に、その話の中身は引き継ぎのほうはしていないんですけど、昨年度まで、教師をしまして、小学校の教員だったんですけど、今のお話で、読書というのは、やっぱり、心の栄養になるということで、取り組んできまして、自分のクラスで、読書貯金通帳なるものを作っておりました。とにかく、ページを貯めて行こうということで、私、4年生の担任だったんですが教室全体、クラスで32人いたんですが、50万ページ貯まったというところで、すごく子どもたちも充実した読書活動ができたなあと思っておりまして、読書感想文コンクール第1回だったということなんですけれど、これから先、2回、3回と続けていただければと思っております。

三浦会長～感想画と感想文を、夏休みを中心に、秋に募集をするような形にしたいということなんですね。というのは、絵で表現したほうが得意な子どももいますし、文字で表現したほうが得意な子どももいるので、どちらも出せますよという形を作ってあげたいという方向へ向かっているようですので、ひとつ、皆様方の協力が大変重要であろうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

豊田参事～私どものほうで、実は、この件については、教育委員会の定例会に福島館長のほうで報告をさせていただいて、おおむね、教育委員の皆さん方からも高い評価をいただいたというのが現状でございます。いくつかさらに、これに上乘せをしてですね、提案をいただきましたけれども、ひきつづき継続することが子どもたちにとって望ましいだろうというような結果を、教育委員会の中でも提案をさせていただいている部分がありますので、今後ともよろしくひきつづきお願いをしたいということです。

小澤委員～いい話を聞かせていただいてありがとうございます。1つだけ教え

ていただきましたかったのは、女の子のほうが優秀だねなんてお話があったじゃないですか。応募自体はどうなんですか。男の子も女の子も同じぐらいの応募があるんですか。

事務局（福島川口図書館長）～女の子のほうが多い状況でございました。7割ぐらいが女の子、女性の生徒でした。やはり応募自体も女の子のほうが多い状況でございますので、男の子も積極的に応募していただくように今年働きかけを考えているところでございますので、皆様方のご協力のほうをよろしく願いいたします。

三浦会長～ほかにご意見、ご質問ございますでしょうか。よろしゅうございますか。それでは先に進めさせていただきます。

（三上委員退出）

三浦会長～続きまして、学校連携としての図書館サポート事業における24年度の実施状況と25年度の予定についての説明を事務局からお願いいたします。

石川委員～八王子市では、平成22年4月から、学校図書館サポート事業を行っております。それが本年度の説明書というか、リーフレットになります。その内容を私からお話をし、統括の山本のほうから24年度のところまでについて詳しくお話をする予定でいたんですけど、来ておりません。申し訳ありません。私のほうからお話しさせていただきたいのは、裏のページを見ていただきまして、下に樹形図がありますが、柱のほうから説明させていただこうと思っておりました。柱の1つ目ですね。柱が2つありまして、1つは、教育センターにおける学校図書館の担当、それから、柱の2つ目が、昨年9月から展開しております、読書推進担当。これが、学校図書館サポーターということで、やっております。柱の1つ目につきまして、3つに分かれておりますが、その1つ目の教育センターの学校図書館担当につきましては、教育センターにおります研究主事2名と、それから後、司書資格のある嘱託員が2名おりまして、その経験と専門性を生かしながら、各校に支援を行っているという状況です。柱の1つ、教育センターの図書館担当が行っているものとして3つあります。1つは、5年間で市内すべての学校を巡回して、管理職ですとか、図書館担当教諭のヒアリングを行う、もしくはアドバイスをすることで、その際に、本の選び方ですとか、図書館の整備などの支援を行っております。市内108校の、小学校70校、中学校38校ありますので、108校のすべての学校を巡回するという点で、5年間かけてというところがあります。それから、2件目なんですけど、図書館活動全体を支援する、相談窓口を開設するというを行っております。

その際、学校図書館に役立つ情報を発信しましたり、必要に応じて、全校の学校図書館の状況調査などを行ったりしております。それが、教育センターで行っている仕事の2つ目ということになります。3点目なのですが、司書教諭や図書ボランティアの研修会を行っておりまして、今年度ももうすでに、企画をしております。司書教諭研修会は年に3回。それから、学校図書館の読書指導員の研修会、つまり、ボランティアとして学校に入られている方の研修会として、年に3回。それから、八王子市の教員の方で、パワーアップ研修会というのがあるんですが、そのパワーアップ研修会が、年に1回。ステップアップ研修会ということで、これも年に1回ということで、合計8回の研修会を行いながら、学校図書館の教諭としての力というものをつけて行こうということで、そういう研修活動を行っております。

それからもう1つが、昨年9月から展開しております、学校図書館サポーターの件です。これが柱の2つ目ということになります。これは、司書資格もしくは、司書教員免許のある嘱託職員8名を現在、今年度は小学校23校、中学校9校に派遣しております。昨年度ですと、17校ということだったんですが、今年度は、小中あわせて32校に、それぞれ派遣するという活動を行っております。8名の方がおりますので、1人4校を担当して、それぞれ、派遣という形で行っております。その際、各学校の実情というのがあると思うんですが、そこに見合った学校現場で、直接、先生方や、子どもたちにも支援を行うという活動をしております。学校図書館の活用の際の年間指導計画を先生方に作っていただく時の支援を行ったりですとか、学校図書館を活用した、授業支援、ブックトークという形を行ってみたりとか、私が授業でやった時には、ブックトークというのはやってみましたし、あとは、読書新聞を作ってみたりですとか、本にそれぞれ帯をつけるという活動を行ったりしました。そのような、授業をやる時の支援活動をサポーターの方が行ったりしております。それからあと、学校では最近、朝の読書ということで、その、朝読書ですとか、中学校になりますと、図書委員会、小学校もちろんあるんですけど、図書委員会の活動の中への支援という形も行っているということでございます。

あと、先ほど申しました、教育センターの学校図書館担当とともに、学校図書館の環境整備などにも取り組んだりということで、直接的に学校にかかわって、授業の中にかかわってということでは、学校図書館サポーターという形なんですけど、教育センターの方も巡回しながら、それぞれの学校の先生方に支援を行っているということです。詳細につきま

しては、山本統括からということでもあったんですが、私のほうからは、骨子ということで、お話をさせていただきました。

事務局（福島川口図書館長）～山本統括指導主事なんですが、もう少しでこちらに到着するようでございます。

三浦会長～今ご説明をいただきました、内容につきまして、ご質問、ご意見ございますでしょうか。

嘱託職員の方8名で回っていらっしゃいますけれど、足りているんでしょうか。お1人が4校ですか。

石川委員～市内の学校全部という形ではないんですが、本年度、特に読書活動を推進していくという学校を決めまして、その中で32校ということで。

三浦会長～お1人が4校というのが適切だという風な状況なんですか。

豊田参事～私、前、指導課にもいたんですけれど、こればかりは予算の部分もありまして、当初始めたのは嘱託員さん2名と4名ぐらいの体制で始めたんですが、それを倍にしてですね、5年間で全校回るといような話ですので、人数が多ければいいんですけれど、これは予算も絡む問題なので、一概に私どもの希望通りには、という話なので、5年間で全部回るといような話で聞いております。

三浦会長～将来的にうまくいくかどうかは予算の問題もあるとおっしゃっている。本来ならば、毎年、各校とコミュニケーションができるような形がベストなんだろうという風に思いますんで、ぜひ参事にも頑張っていたきたいと思います。

山崎委員～大変すばらしい授業をなさっているという風に思います。学校図書館に対する援助というのは、何も学校図書館だけではないんですね。私は、図書館に関することも研究しているものでございますけれど、図書館というのは、面白い組織でありまして、八王子市にある公共図書館、八王子の図書館です。あるいは一部の大学の図書館も使えるようになりました。また学校図書館もございしますが、図書館というのは、基本的な原理がどこでもいっしょなんですね。本の探し方というのは、もちろん、入っている本とか、そこにある目録の詳しさなどは違います。けれども、基本的な原理は一緒なんですね、本について、著者がだれで、その本の題名が何で、それにいったいどういうことについて書いた本か、分類したりする、分類のやり方。これは、すべての図書館でほとんど共通に行われているものです。非常に珍しいケースですね。そういう世界というのは。だから、例えば、学校図書館で本を上手に探せるようになった人は、大学に行っても本を自分からどんどん探せるようになります。自分の地域の図書館でもどんどん本を探している。あるいは図書館を活

用することができるんですね。だから、そういう意味では、図書館の利用の一番最初の段階で、その技術を習得するという、最近はそういうことを情報リテラシーとか言ってますけれど、そんな言葉を使わなくても、学校図書館の段階で、そういう人を育ててしまうというのは、図書館全体の底上げにもつながるといことだと思っんですね。そういう意味合いで一種の乗数効果のようなものが、経済でいえば乗数効果のようなものがあるんですね。投資した額以上のものが返ってくる、全体として。そういう、教育全般がそうなのかもしれませんが、図書館について言うと、私は学校図書館の整備というのは、そういう側面がある。ぜひ、そのことを八王子市の中でもお考えいただくと、全国的に見てもいい例になるだろうなと思います。

森岡委員～5年で回られるということですから、平成24年度からですから、平成28年度ですか。平成28年度まで続けられるということて理解してよろしいんでしょうか。それで、第2次読書のまち八王子推進計画によりますと、第2次は26年度で終わるんですから、第3次があるかどうかわかりませんが、それにも引き継がれていくと、理解してよろしいんでしょうか。

豊田参事～今の話は、22年度から進めている話ですので、5年間というて、26年度には、全校回れるくらいの予定でいると思います。今のお話の、これから議題になっていくというか、今後、25年度については、第3次の読書のまち八王子推進計画についてはですね、ひきつづき私ども今年度、この場で議論をしていただきながら、私どもとしては、第3次を作って、継続的にやっていきたいというふうな考え方でおります。

三浦会長～現状では、32校ということは、約3分の1ですよね。

石川委員～はい。

三浦会長～全校には、とりあえずは、何年かかかるということですね。

石川委員～はい。

三浦会長～3次計画については、いま、ご説明が参事からありましたが。

事務局（福島川口図書館長）～3次計画につきましては、次回、また、24年度の実績と25年度の予定をそこで議論させていただいたうえで、追ってまた皆様からのご意見を頂戴しようと思っんですね。この場で、また後程、なにかございましたら、頂戴するということにいたしまして、その先の報告のほうにおすすめていただけたらと思っんですね。

三浦会長～「平成25年度予算について」事務局から説明をお願いします。

事務局（樋口中央図書館主査）～ナンバー3のA3の資料をご覧いただきたいと思っんです。八王子市の財政状況は、歳入では、市税が横ばいする一方

で、歳出において、義務的経費のうち、人件費や公債費が減少するものの、生活保護費や保育所運営費などの扶助費が増加し続けるほか、国民健康保険事業、後期高齢者医療、介護保険の各特別会計への繰り出し金が増加していることにより、ひきつづき、厳しい状況が続いている状況でございます。こうした中で、平成25年度の予算編成につきましては、新規事業を除いた、既存事業について、人件費、扶助費、公債費などの義務的経費と、債務負担解消分などの固定費を除いた経費の10パーセントの削減を上限とするという条件で予算は編成されました。

図書館につきましては、平成25年度の予算についてなんですが、要求いたしました中央図書館の施設の改修工事や、公共料金の値上げによる増額などによりまして、総額は、昨年度の4億9940万7千円にくらべ、5億174万4千円で、233万7千円、0.5パーセントの微増ということになっております。増額の主なものとしましては、中央図書館のハロン消火設備改修工事費など工事請負費が801万円の増、公共料金が626万8千円の増となっております。その一方で、減額の主なものとしましては、資料購入費が昨年度の7757万6千円から6351万5千円と1406万1千円、約18.1パーセントの減となっております。なお、各館ごとの予算につきましては、こちらの資料の通りでございますので割愛させていただきたいと思っております。説明は以上でございます。

三浦会長～この予算書をご覧いただきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

グロスとして微増だというけれど、実際には、図書の問題とかそういうことじゃなくて、電気料金の値上げとか器のほうの分に使われてますよと実際、図書購入費は減っているんですけどこういうご説明でいいんですね。

先ほど、子どもたちの読書でよかったよという話も出たんですが、実際には、予算的には減らされている。

豊田委員～市の予算の関係で、こういう風に分かれていくか、減っているのを見るというのは、どんなところが減っているんですかね。

三浦会長～私の知っている範囲では、ほとんど全課、全部ですか。

豊田参事～予算につきましては、扶助費だとか、生活保護の、そちらのほうの経費がやっぱり伸びているというのが今の八王子市の現状でございまして、なかなか、投資的な経費のほうへ回っていかないという中でですね、もう一点大きな支出としては今年は国体がわたくしども八王子のほうで9月に開催されて、そこに人件費も含めて、50人体制の体制をとった

りしているので、そこで大きな、教育費としてやっぱり伸びているんですけれどやっぱり国体のほうにかかっちゃっているという部分もありますので、来年度にむけてぜひ予算確保に向けて私のほうで頑張りたいと思いますよろしくお願ひします。

豊田委員～これは内部事項を書けというわけじゃなくて、こういう面があるという。

豊田参事～来年の10月ぐらいから予算編成にむけて、ただ、景気の動向が、ここでアベノミクスじゃないですけど税収がよくなれば、ある程度投資的な経費にも振り分けていただけるかなと、いう思いではありますけれども、こればかりは何とも景気の動向は私の一存ではなんともいえないんですけれど。

豊田委員～目に見えない投資というか、すごく大事なことと思います。将来にわたる投資ですからね。

山崎委員～今、現状を伺って、多少残念な気がいたしますけれど一生懸命頑張っておられると思うんですが、この予算書を拝見すると、もう一つ図書館サービスの満足度調査、これは後でご説明があるのかもしれないのですが、非常にいいデータを載せていただいていると思うんですよ。青い、「らいぶらりい」の5ページなんですけど、ちょっとこれをご覧いただきたいんですが。これでですね、満足度の調査というのがありまして、重要度と満足度の情報を利用者に聞いてらっしゃるんですね。いろんなのがあって、本の冊数がどうだとか、借りられる本の冊数、期間だとか、あるいは職員の対応だとか、探しやすいだとかという、やはりそういう図書館のハードに関する本の設備がどうか、本の冊数がどうか、借りられる期間がどうか、こういうものと、ソフト的な部分、職員の対応だとか、探しやすいとか、考えますと、職員の皆さんがものすごく頑張っておられると思うんです。これ、非常に職員の対応が高いんですよ。数値が。4点満点ですからねこれは。5点法だと3点は大したことはない。4点満点なんですから。3.42という非常に高い数字を職員の対応は得ているんですね。これは要するに職員というか、図書館の皆さんが図書館の利用者に対する対応だとか説明だとか考えればみんなここに入る。それに対してですね、図書の実度というのは重要度が非常に高いにもかかわらず、満足度は2.75しかないんですよ。これは図書館の職員の頑張りでだけではとても解決はできないわけです。そもそもハードがないわけですから。そうすると、八王子の図書館の将来を考えると、非常にハード的に、今、大変なところにあるけれど、職員の努力で何とか持っている。はっきり言えば、そういう風に言える。でも、それは将来

的にあまり長続きできない。だからやっぱり、将来に八王子市は図書館のことをどうお考えになるのかということの分岐点に来ているという気がするんですね。ここで、ハード的な部分もある程度充実していかないと、図書館というものは、例えば、毎年毎年、本が積み重なっていくところだから、ある年はないけど、次の年にもものすごく買えるから、そこでいっぱい買えばいいやといったって、もうその年には売ってない本もいっぱいあるわけでしょうね。そうすると、非常に難しく、特にお役所の経費の中で、毎年同じように出てくる人的経費みたいになっちゃってすごく予算要求しにくいのかもしれないのですが、さっき館長さん言われたように、投資的な部分がちょっと、投資もそれも、見えざる投資で、すぐ儲けるとかいう話ではなくて、明日の子どもたちなんですね。将来の市民を育てる投資なんですね。そのことをぜひ、議会でも、あるいは本庁でも理解していただいて、お話をされるのがいいと思いますね。普通の経費で1回限りの、一過性のものと全然違うんですね。将来にわたって有効。例えば1000円の本を買っても、10人が利用すれば1冊1000円の本を買ったことに等しいんですよ。10回回転率がありますから。回転率が上がれば、その分だけどんどん経費は見かけ上は安くなっていくはずなんですね。それだけの効果はある。だから、そういう意味から考えると、ほかの経費と同じように考えて何パーセント減というものに対しては、私は、もっと抵抗していただければいいなというのが、図書館に関係する人間としての率直な感想でございます。

中村委員～市民満足度調査というのは図書館に来た人を対象に行っていますから、図書館が遠くて、利用できない人が、入っていませんから、市民全体に対して満足度調査をやれば、必ず満足度がずっと下がってしまうと思うので、そこら辺を考えてほしいなと思います。図書館が十分かどうかとか、そういう調査を。

三浦会長～どれだけ本があれば、満足かというのは、大変、難しい問題であることは事実なんですけど、先ほど山崎委員からお話があったように、図書というのをきちっと増やしていかれるようなまちというのを、やはり明確に図書館サイドから、しっかり伝えていただきたいと思うし、逆にいうと、もうこれ以上減らさないでよ、というところまで、もう限界のところまで来ているような気がするので、すべてを減らしてしまうと、これだけの館数がある街で、1館の図書館で、毎年増やすことができる図書の量というのが本当に微々たるものになってしまう。それで、本当に、市民生活が豊かになるのか。「読書のまち八王子」を、推進しているまちで、本当にそれでいいんですかと、いうことを、皆さんのご賛同がいた

できれば、この会議の総意として、ぜひ、事務方を通して、教育委員会のほうへも、財政のほうへも伝えていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

(拍手するものあり)

そういうことでございますので、大変なのはすごくわかっているのですが、それでもなお、頑張っってこれからの読書に対して、ご尽力いただきたいようにお願いいたします。

豊田参事～ご承知の通り学校の耐震化だとか、そういった部分のハードの部分で教育委員会のほうとしては、非常に予算をとられているというのが現状ですので、とりあえず、子どもの生命、財産を守る耐震化工事、これが一義的に優先をされているというのが現状ですので、これが来年、再来年度くらいには体育館のほうの工事も終わるということですので、ぜひ、私のほうから、そのあとについては、予算確保につきましては、十分努力していきたいという風に考えておりますので、よろしく願いいたします。

森岡委員～推進計画のナンバー1に、地区図書室のことがふれられておりまして、これが分室化が進んでいるのかどうかというのがあまり聞かないものですから、ここについて、何でそういう風に、私は進んでないんじゃないかと思うんですが、何でそう進まないのかということも含めまして、先ほどの、決議じゃないんですけど、会長さんが取りまとめられた話にあわせて、このことも要望したいなど。今日、ここに参加するにあたって、私も文庫連にかかわっておりまして、その時にこの会議の報告をするんですけど、この話が出まして、どうなっているんだろうという風に言われて私も代表としまして、発言させてもらいたいと思いました。

事務局（中村生涯学習センター図書館長）～第2次読書のまち八王子推進計画のなかで、そこに書かれているんですけども、2次計画の中で、地区図書室の分室化を、2から3実施するというそういう目標は、その推進計画の中に載っています。ですから、それを目指して、予算措置をしようというそういう流れをずっとしてきましたけれども、さっき参事がお話ししたように、25年度については、国体があるという関係で、図書館のほうも地区図書館の分室化という形で予算化を目指したんですけども、今回は、予算がないということで、切られてしまったという実情はあります。ただ、推進計画の中に、26年度までに2つから3つ実施したいという、目標が載っていますので、ひきつづき26年度についても、図書館としては、地区図書室の分室化を目指して、予算要求をしていく。そういうような形を考えています。また、3次計画の中でも、ま

たそういう形で分室化をどうするかということは、また、この会議の中で議論していただきたいと思っています。

豊田委員～市民センターあたりも地区図書室になるんですよね。その辺の充実も含めて、たとえば、八王子の市民センターの現状というか、盛んなどころ、全然ダメなところといろいろあると思うんですけど、私も、台町市民センターをよく使うんですけどね。

三浦会長～地区図書室の利用状況というのは、次回以降の27年度以降の第3次計画の中にも触れていただくようになると思いますので、もし資料がありましたら、いただければ、議論のもとになろうかと思しますので、お願いをいたします。現状でわかる範囲で、ご説明いただければ、ご説明をお願いしたいと思います。

事務局（中村生涯学習センター図書館長）～一番、地区図書室の中で利用されているのが、みなみ野にあります、由井市民センターのみなみ野分館。そこが、やはり、利用が一番多いです。特に、そういう利用が多いところは、予約も多いですし、図書館から本を届けている、そういう数もすごく多いですし、反対に、そこに蔵書数は1万冊くらいしかないんですけども、その本自体の回転も、よくなっていますので、いつ行っても本があまりない状態という形です。本が1万冊しか置けないというのは、片柳学園の、教室の2階を使っているということで、1万冊以上置いてしまうと、床が抜けてしまう恐れがあるということで、スペースはまだあるんですけども、一応、最大1万冊という形です。

三浦会長～重量制限があるということですね。

事務局（中村生涯学習センター図書館長）～そうです。

三浦会長～本て重いですからね。もし、地区図書室として需要が高いということであれば、あそこは、地区図書室のなおかつ分館なんですね。地区図書室本体じゃないんですね。ですから、3次計画の段階ですね、そういう具体的なことも議論いただきたいというふうに思いますので。もし資料がありましたら、次回の会議で出していただければと思います。よろしくお願いします。

豊田委員～本自体も多くしてほしいんですけども、活用日数が、例えば台町市民センター、私、よく利用するところなんですけど、三日しかないんです。それを地域でご協力をしていただいて、もう少し、時間と日にちとか、そういう面でもやってほしいなど。

三浦会長～一回の貸出日数ということですか。

豊田委員～一週間の貸出日が少ないんで、時間と。

小澤委員～月、水、金しかしていないという感じなんですよ。

三浦会長～貸出しをしている日にちが少ないと。

豊田委員～日にちが少ないのと、時間も短い。

三浦会長～時間も短いという。ぜひそういったことを3次計画の議論の中でもご議論いただきたいと思いますので、資料も併せて、いただけるものであれば出していただきたいと思いますし、ご議論の対象にしていただければと思います。今のご指摘についてご発言はありますか。

事務局（中村生涯学習センター図書館長）今の、ご指摘を受けている内容は2次計画の中で、地区図書室の充実化という部分があります。その部分で、ふれあい財団のほうが、できる限り増やしていくという努力はされているんですけども、ふれあい財団が住民協議会のほうへ委託をしているんですけども、そちらとの調整が今のところうまくいっているところは、ほぼ毎日に近いようなところもあるんです。ただ、あいている時間が2時間とかという制約もありますので、その辺は、職員の方と調整をしながら、少しずつ財団のほうでいま拡大をするという形がありますので、今後以降、3次計画の中でもひきつづきその辺の充実化を図るというような形で、この会議の中で、また提案をしていただければと思っています。

三浦会長～状況からすると今ご説明があった通り、地区図書室は、地域の住民協議会が運営をいただいている。その関係で、その住民協議会の、地域の住民の方なんですけど、住民の方が、どこまであけていただけるか、ということなんです。ですから今お話があったとおり、場所によっては、ほとんど毎日開けているところも実はあるんだと。3日しかあかないよということになると、地域住民の協力が、ご事情もあるんでしょうけど、まだそこまで得られていないというようなことで、なっている部分があるようですので、そういったことを今後、財団を通して、働きかけを逆にさせていただくような、そんな形のものを、次の計画にも合わせて載せていきたいという風にも思いますし、時間的にも、住民協議会のほうで決めていただいているんです。実際には。

豊田委員～利用している町会があるんですけども、町会の代表で協議するんですけども、こういうのに働きかけて、日数をやらない、それから、時間増やしたい。

三浦会長～両面からやらないとうまくいかないですよ。財団のほうからもそうですし、あるいは図書館からもお願いをしていただく。合わせて、地域の住民の方からも、開ける時間を、日数を多くしてほしいとか、時間を長くしてほしいとか。そのためには何人の方が、携わっていただかなくてはいけないと逆算で出てくると思うんです。それによってオーブ

ン時間も長くなるんですし、そういったことを次の計画の中にも入れていただけるようにご議論いただければと思います。よろしく願いいたします。

事務局（村田南大沢図書館長）～私、3月まで、市民活動推進部というところで、先ほどお話した通り、ふれあい財団のほうの指導監督のセクションにおりまして、市民センターは、いま、指定管理制度ということで、ふれあい財団に今回、23年度から10年間の指定管理契約を結ばせていただいて、館の管理をお願いしているわけですね。その中に地区図書館の運営経費も含まれておりまして、財団から住民協議会にまた委託みたいな形で行っているわけですが、市側からすると、経費削減という中で、より効率的な執行をお願いしているという状況もあります。そういう中で、三浦会長がおっしゃっていただいたとおり、行政サイドとしては、経費を削らざるを得ない。また、財団は財団として、効率的な執行を行う中で、より住民サービスをいかに向上するかといったことを財団としても、今、考えていただいているところなんです。ですから、財団から住民協議会をお願いする中で、ボランティア的な要素がどうしても強くなってしまいかもしれませんが、地域の方々のご協力をいただく中で、1時間でも、1日でも、多く開けられるように、先ほど見えていたコミュニティ振興課長の三上さんとも、ぜひ、歩調を合わせてやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

山崎委員～少し、全般的なことで伺いたいと思っていることがひとつありまして、よく言われることで、こういうことが八王子の場合あるかどうか教えていただきたいのですが。インターネットがすごく普及をしています。各家庭にも入っている。みんながインターネットを使える。スマホからも使えるようになっている。いろいろなものを使える。そうすると図書館なんて言うものは、整備に金を回すよりはそのほうが大事なんではないかということをする人がいるんです。そういう風に、もちろん図書館というものに対して、ある程度の重要性は考えるけれども、インターネットが出てきた以上、図書館の役割が昔ほど重要でなくなったとそういう認識のもとに予算を減らそうという話も聞くんですが、八王子の場合その辺はいかがですか。

豊田参事～私どもの財政とのヒアリングというのは多分あるんですけれども、前任者が、ヒアリング担当してたんですが、そういう認識ではなくて、全体的な、今言われたように、最終的には、トータルの歳入というのは決まっていますので、その中から、当時は税収が落ちて、不景気で、生活保護世帯にどうしてもお金を、要するに、生きる、生きないのそ

うところへお金を回さなくてはいけない。耐震もやらなくてはいけない、国体も今年度はどうしてもやらなくてはいけないとか、そういう総合的な判断の中でのあれなので、今のお話の、インターネットでという話の中の話というのは、まだそこまで言っていないという認識でいます。

山崎委員～実は、そういうことが出てくる可能性があると思っけていまして、やはり、図書館の役割とインターネットが果たしている役割は違う部分があるいろいろなことなんです。ことにふれて、お話をされておくほうがいいんじゃないかという気がするんですね。昨日でしたか、地裁の判決が出ましたけれども、グーグルが、個人の名誉を棄損するような情報を流すのはけしからんという話があります。それは、グーグルのやっていることというのは、インターネット上にある情報をただ整理をして流しているだけなんです。そこに規範的な判断は何も入っていないわけです。こうすべきとか、ああすべきとか。逆に言うと、グーグルにそういう判断をしてくれということをお願いすること自体本当は変なんです。グーグルは民間企業ですよ。民間企業が何で情報のコントロールをするということ、裁判所が頼むのですか。私はすごくわからなかった。素朴に。逆に考えると、それは図書館では前からやっているんです。そういうプライバシーとか、人間の尊厳を守らないような情報は初めから図書館に入れられないわけです。図書館の利用者に渡さないという、そういうことをやっている。情報の品質管理をきちんとやっている組織なんです。それとインターネットのグーグルのようなところを同じにする考えがある。しかしながら、グーグルが悪い、そんなことはないです。インターネットとは、もともと闊達な組織で、完璧な規制緩和の状態なんです。規制のない状態で、出発したところと、教育ということの中には比較すること自体がおかしいとわたくしは思っているんですが、それぞれにいいところはあるわけですね。だから、インターネットの世界に無理やり規制をかけていくというよりは、図書館のような組織をもっともっと健全にしていってほしいとずっと組織の運営としては、効果も大きいしまつとうな話だなと私は思っていますので、まだそうっていないというのは幸いです。そういう話が出てきたら、そういう風なことを申し上げて、インターネットだけに子どもたちを接続させて、そこで全部情報が集まったと考えたら、それは悪い情報のほうが伝わっている可能性が大きいんだというふうに、はっきり申し上げたらよろしいんじゃないかと思っけています。これは、むしろ、ひとりの研究者としてのお願いかもしれないです。

(山本統括指導主事到着)

山本統括指導主事～遅れてまいりました。八王子市教育委員会統括指導主事の山本と申します。よろしく願いいたします。先ほど石川のほうから、学校図書館のサポート事業について、お話をさせていただきましたが、私からも、少しこの事業についてお話をさせていただければと思っています。ご存じのとおり、学校では、図書館の活用ということが注目をされています。学校では、学校図書館を計画的に利用して、子どもたちの主体的で意欲的な学習活動や、読書活動に繋げていくということを目指しています。ですから、計画的に利用するということが第一ととらえて、私たちも、このサポート事業を展開をさせていただいています。先ほどご説明があったとおり、平成22年度から4名の担当で学校のほうを巡回で環境整備を中心とした、事業を展開してまいりました。今年で4年目を迎えますが、すでに70校ほど、整備のほうは終了してきています。整備が終了した学校について、本格的に平成25年度から学校図書館サポーター、読書推進担当という、司書資格を持つサポーターを週1日ほど学校のほうに派遣をさせていただいています。図書館の業務を週1日1人で担うということではなく、学校の先生と共同して先生方に意識を持ってもらって、最終的には、年間指導計画を立ててもらって、積極的に学習活動や、読書活動に繋げていただくという風に思っています。いわば、第2の司書教諭としての位置づけになっていただければなと思っています。昨年度の9月から、試行的に17校ほどにこの派遣サポーターを学校のほうの活動に入らせていただきました。先生方や、学校には、たくさんのボランティアの方もいらっしゃいますので、その方々とうまくつながって、子どもたちにいい啓発を与えることができた学校もあります。貸出しの冊数、これだけで授業の成果を言うのは、よくないことだとは思いますが、ある中学校で、1学期に1年生で、貸出冊数が百何冊でした。派遣サポーターとボランティアの方がうまくつながって、2学期から入ったんですけれども、爆発的に貸出冊数が増えた学校があります。数でいうと、600台。100台から、600台に上がった学校もあります。残念ながら、そういう学校ばかりではなく、逆に減ってしまった学校もあったんですね。やはり、先生方とうまくつながっていく、ボランティアの方とつながっていい影響を与えられると、子どもたちにもいい影響が与えられるんだなということを改めて感じた次第です。本年度は、巡回指導を終わった学校に募集をかけさせていただいて、意欲のあるところを中心に32校の学校に集中的に派遣をさせていただいています。今日も、私、学校のほうに行ってきて、様子を見てきました。学校によって本当にいろいろな状況です。本当に

本が動くような状態。授業でもどんどん使っている。年間指導計画がそろっているという学校もあれば、まだまだ閉じたまま、指導計画もない、また、あまり授業でも利用されてないというところもあります。その学校ごとに目標を決めて、今年度は、この8名のサポーターに学校支援をし、学校の条件に応じた読書活動を推進していただこうと考えています。全校配置というところが一つがよく話題に上がるころなんですけれど、先生方と一緒に意識を持って高めていくというところが大事ななという風に思っています。そんなところですが、少しずつですが、子どもたちが本に親しむ態度というのを養っていきたいと思っていますので、この授業について、またご支援をいただければと思っています。

三浦会長～今のご説明に、ご意見、ご質問はありますか。

豊田委員～伸びたのは、なにが原因で伸びたのか、分析して、各学校に情報を流す。減ってしまった原因はなんだったのか、そういうのも情報を各学校、あるいは家庭にも流さなきゃいけない。学校便りがたくさん出てますけれど、そういうのを通じて流していく。学校さん、忙しいんですけど、食育とか、いろいろな、すごく、それだけでも忙しいと思うんですけど先生方と地域で頑張ってください、あとご指導いただく。

山本統括指導主事～学校によって状況等が違いますから、同じことをやって同じように成立するわけじゃございませんけれど、やはり、いい取り組みというのは、いろいろ伝えていく機会を設定していくことが大事だと思いますので、今年度も定期的にサポーターには集まっていただいて、情報提供をしていただこうと思っていますので、学校に流せる情報については、流していきたいと思っています。また、読書をする時間というのは、学校の中というのは本当に限られているんですね。だから、おうちの方にも啓発をしていくということは大切だとわたくし共もとらえております。

三浦会長～ほかにご意見、ご質問ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。以上で報告事項は終わりました。

他になければ、次回日程についてはいかがでしょうか。

事務局（福島川口図書館長）～7月9日（火）、10日（水）、11日（木）あたりはいかがでございましょうか。・・・（日程調整が行われた）

三浦会長～それでは、平成25年度第2回の会議は7月11日（木）に開催いたします。

以上をもちまして、本日の会議を終わります。長時間のご審議をありがとうございました。

以上

